

碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

特集

未来につながるSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

97

2019 November



未来につながるSDGs

視点

3 先の見えない時代の道標となるSDGs 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 蟹江憲史

6 解説 持続可能な開発目標(SDGs)とは 補足 拡大版SDGsアクションプラン2019

8 SDGsを通じて企業活動の意義を明確にする 株式会社荒谷建設コンサルタント(広島市)

10 知育玩具の販売を通じ、開発途上国の子どもたちに学習道具を提供 イッポロボ合同会社(鳥取市)

12 官民連携で成果運動型の健康づくり事業を推進 おかやまケンコー大作戦(岡山市)

14 「地域に生きる企業家群像」 株式会社ちむら 代表取締役 千村直美(鳥取市)

18 「キラリ輝く元気企業」 「自然に学ぶ味噌づくり」を理念に、人々の健康に貢献し、食文化を守る有限会社まるみ麹本店(岡山県総社市)

20 「夢紡人/ゆめつむぎびと」 誰でもいつからでも、音楽を楽しめる環境を「プロデュースするピアニスト渡邊朋子さん(広島県三原市)

23 「この名酒にこの一品」 八千代 純米大吟醸50 むつみ豚の角煮(山口県萩市)

24 「近現代芸術再発見」 山名文夫(広島県生まれ)「1897-1980」

26 「船上から見る景色」 2 吳湾おさんぽクルーズ(広島県呉市)

28 「山をあるく」 8 赤ハゲ山(島根県)

青い海と緑の山々に恵まれた中国地域に、地域づくりの風が吹き始めています。自分たちの大好きなこの街を少しでも良くし、子どもたちにしっかりと手渡したい。こんな気持ちで頑張っている人たちがいっぱいいます。「碧い風」は、そんなまちづくり人を結びながら、自分たちのまわりにある魅力を高め、きらめくような中国地域にしていってほしいと思っています。強くはないが、楽しい風。そんな風を、みなさんと一緒に巻き起こしたいと考えています。

碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

97

2019 November

contents

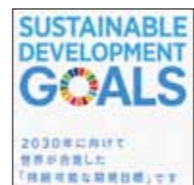


特集

未来につながるSDGs

視点

先の見えない時代の道標となるSDGs



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

蟹江 憲史

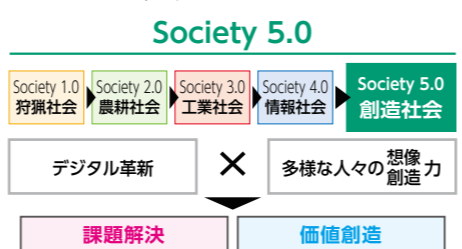
経済、社会、環境の三つの柱で支えられているSDGs

二〇一五(平成二十七年)年九月の国連総会で、持続可能な世界を実現するための国際目標であるSDGs



(Sustainable Development Goals)が採択されてから四年が経過した。この間、日本経済団体連合会(以下、経団連)はSociety 5.0の実現とSDGsの達成を最重要課題と位置づけ、企業行動憲章を改定し、SDGs推進の旗振

Society5.0とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会。内閣府の第5期科学技術基本計画(2016年1月)において、わが国が目指すべき未来社会の姿として提唱された。AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどのデジタル技術革新により、新しい価値やサービスが次々と創出され、経済発展や社会的課題の解決が促されることで、人々に豊かさをもたらしていく社会である。



Society 5.0 for SDGs
日本経済団体連合会は、Society5.0の実現を通じたSDGsの達成を「Society5.0 for SDGs」と呼び、最重要課題と位置付けている。変革の方向が一致するSociety5.0の実現とSDGsの達成は、以下の事例のように関連している(一例)。

- 2 IoT、AI、ビッグデータを活用したスマート農業により食糧生産を増大。最先端のバイオテクノロジーを用い生産されたスマートフードにより栄養状態を改善
- 13 スーパーコンピューターを用いて、気象観測データの解析に基づくシミュレーションにより、気候変動問題を解決

日本経済団体連合会SDGs特設ページ(https://www.keidanrensds.com/)および経団連リアルレポート2019などを基に作成

り役となってきた。その影響もあって、大企業ではSDGsの取り組みがほぼ不可欠となり、中小企業においても積極的に取り組む企業が増えてきた。さらに、自治体においても、六十都市が内閣府のSDGs未来都市に、二十の事業が自治体SDGsモデル事業に選定されるなど関心が高まっている。SDGsが生まれた背景には、経済、社会、環境の三つの側面がある。SDGsは、二〇一五年を達成期限としていたミレニアム開発目標(MDGs(Millennium Development Goals))を継承するものである。MDGsの達成期限を迎える数年前から、今後の目標をどうするか議論されてきた。MDGsは主に経済開発と社会開発を中心としたもので、量的な開発、特に開発途上国の貧困と飢餓の撲滅など

経済の発展に焦点を当てた目標が掲げられてきた。他方で、一九九二(平成四)年の「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」から二十年目にあたる二〇一二(平成二十四)年に、環境問題と持続可能な開発に関する国連主催の国際会議(リオ+20)がブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された。ここで、二酸化炭素の削減をはじめとした地球環境の課題や、科学技術の進歩、グローバル化に伴う社会の変化など、新たな局面や実態への認識が共有されたことで、MDGsの次は持続可能な開発目標にすべきであるという機運が高まった。そこから加盟国間で交渉が始まり、二〇一五年にSDGsが採択、成立するに至った。これまで国連では、政策課題といえ

SDGsにおける17の目標

<p>1 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する</p>
<p>2 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p>
<p>8 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>	<p>17 パートナリーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>	

外務省による日本語訳を掲載

ば経済問題が主流で、社会や環境に関する問題は真正面から取り上げてこなかった。具体的な目標設定、行動となると各国の政策が優先されてしまうからである。今回、SDGsが採択されたことにより、経済、社会、環境の課題がまとめられ、各国の経済問題と関連づけられたことで、「持続可能な開発」の位置づけは大きく変化した。法的拘束力はないものの、SDGsのよりに広範囲で、かつ体系化をして細かく設定した目標はこれまでなかった。この目標に対し、国連加盟国百九十三カ国すべての同意を得られたことがSDGsの最大の意義である。

「マッピングだけに終わらずに経営戦略にも取り入れる」

SDGsは、貧困、飢餓、健康、教育、エネルギー、気候変動、インフラ、格差、都市の問題などを含めた十七の目標から成り立つ。各目標には目標年までに具体的に達成すべきターゲットがぶら下がる。数値目標を含むターゲットの数は百六十九に及び、さらにこれらの課題達成の進捗状況を測るためのグローバル指標も決定した。その数は二百四十四に上り、いくつかのターゲットは同じ指標で計測するため、重複を除外すると二百三十二の指標になる。

目標を総合的に見る

SDGsを経営戦略の中に取り入れていくことと合わせて、今企業に求められているのが、まず取り組んでみる行動力である。SDGsの目標に即した製品を作るのも、取り扱うのでも構わないので、できることからチャレンジしていく。こういった姿勢が大切なのは、持続的な成長にはさまざまな方法があることと関係している。例えば、家づくりの場合、環境に優しい森林認証制度であるFSC認証

これにより、「目標、ターゲット、指標」という三層構造が完成した。現在、企業におけるSDGsの取り組みの多くは、バリューチェーン全体を通じた企業活動のSDGsによるマッピングである。原料調達から生産、運搬販売、消費、廃棄に至るまで、どの活動がどの目標に関連しているかを結びつけている。これは確かに第一歩としては重要で、こうして活動を可視化することで初めて何を变えるべきかが分かってくる。

しかし現段階では、多くの企業がこのマッピングをCSR報告書などに記載するだけで終わっている。肝心なのは、そこから目標達成のためにどのようなアクションを取るかであり、そのためのロードマップを作りながら、経営計画を練ることである。二〇三〇年の大きな目標を描いているSDGsは、四半期ごとの計画よりも中長期の計画によりフィットする。SDGsを経営戦略に取り入れることが、次の大きなステップとなるだろう。

持続可能性の追求により新たな顧客を獲得する

一方で、中小企業ならではの対応の早さを生かし、サプライチェーン全体でSDGsへの貢献を訴求する企業も

の木材を使用することはSDGsへの貢献の一つといえる。しかし、このFSC認証の木材を遠方から取り寄せると、コストがかかり、二酸化炭素の排出量も増える。それならば、地元の木材の流通や加工のプロセスを透明化する仕組みを考えた方がより貢献度が高いかもしれない。このように、一つの指標の達成にこだわるのではなく、全体としての効果を最大化するために「総合的に見る」と」が、SDGsの重要な側面である。国連ではこれらはIndivisible Whole

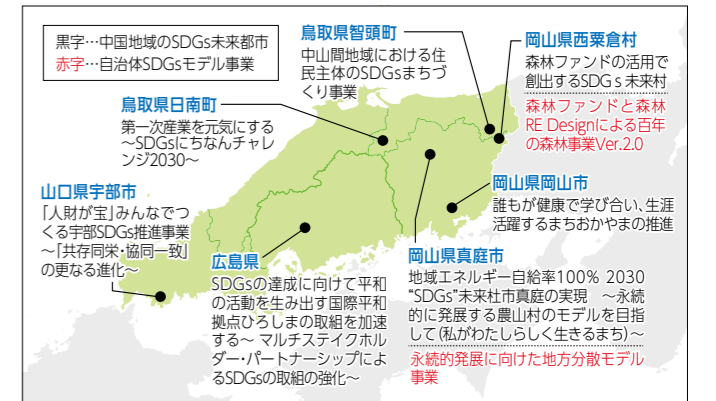
増えてきた。第2回ジャパンSDGsアワードでパートナーシップ賞を受賞した株式会社大川印刷(神奈川県横浜)はその一つで、印刷事業により排出される年間の温室効果ガスを算定し、その全量分を植林や森林保護、クリーンエネルギー事業によって削減するカーボン・オフセットの活動や、大気汚染や化学物質過敏症の原因となる揮発性有機化合物(VOC)を含まない、ノンVOCインキを使用する活動を進めている。社員向けにSDGsのシンポジウムを開いたり、社員が経営戦略を考えたりと、ボトムアップ型で進めているのも特徴だ。こうした活動は初期投資を必要とするが、消費者の関心がサステイナビリティ(持続可能性)に向かってきている今、予想よりも早く投資分を回収できると考えられる。

実際に、大川印刷では印刷自体のコストは上がったものの、新しい顧客が増え、売上全体が伸びている。サステイナブルなもの、人にも地球にもいいものをアピールすることで集まる人は確実に増えてくる。これは、利益一辺倒で企業が評価される時代ではなくなっている証しともいえるだろう。

こうした流れを後押しするとみられているのが、ESG投資である。環境(Environment)、社会(Social)、企業

(不可分な全体)といわれ、近年SDGsを全体として見ることの重要性が強調されるようになってきている。つまり、それぞれの目標は相互に関連しており、どれか一つを取り出して考えることはできないということだ。だからこそSDGsはできることから始めて、少しずつ活動していくことが大切なのである。そして、それらはあくまでも取っかかりであって、本当の取り組みは十七の目標全体に対して貢献することである。このためには、データと指標を基に組みの進捗を測って評価す

中国地域のSDGs未来都市および自治体SDGsモデル事業選定事業



統治(Governance)を重視している企業を評価するESG投資は、日本ではまだ量としては多くないものの、欧米では看過できない存在になっている。世界最大級の基金である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行うようになったことで、この傾向にさらに拍車がかかった。

また、SDGsは金融業界においても関心が高い。SDGsに即した商品や事業であることが、投資家の目から見ても安全と映ることから、企業はCSR調達を含め、社会的責任を果たす活動をもっとアピールしていく必要がある。

ことが不可欠になるだろう。

未来と現実のギャップからイノベーションが生まれる

SDGsに取り組む大きなメリットは、二〇三〇年の世界の姿から翻って、そこに至るまでのプロセスや達成のために必要なことを考えられる点にある。つまり、未来を先取りできることだ。二〇三〇年の世界と、今の世界のギャップを埋めようとすると、イノベーションが起こる。

特に、人口減少が急速に進む日本では、これまでのやり方では事業が継続できなくなり、大きな変革が求められるだろう。先の見えない時代に、未来の形を示し、新しい企業のあり方を示唆する。これがSDGsの持つ可能性といえるのではないだろうか。

profile

蟹江 憲史 (かにえのりちか)
1969年生まれ。94年慶應義塾大学総合政策学部卒業。2001年博士号(政策・メディア)取得。北九州市立大学法学部助教授、東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授を経て、15年より現職。国連大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェローも務める。

※ CSR調達…企業などが調達先の選定や調達条件の設定を行う際に、社会的責任の観点から基準を設定すること。また、調達先に社会的責任を果たすよう要求すること。

補足 拡大版 SDGs アクションプラン2019

2015年にSDGsが採択された後、政府はまず「SDGs推進本部」を設置し、この本部の下で、行政、民間セクター、NGO・NPO、有識者、国際機関、各種団体等を含む幅広いステークホルダーらによる対話を経て同年12月、今後の日本の取り組みの指針となる「SDGs実施指針」を決定した。2019年6月の第7回推進本部会合では従前の「SDGsアクションプラン2019」をさらに具体化・拡大した「拡大版SDGsアクションプラン2019」を決定した。

拡大版 SDGsアクションプラン 2019では、

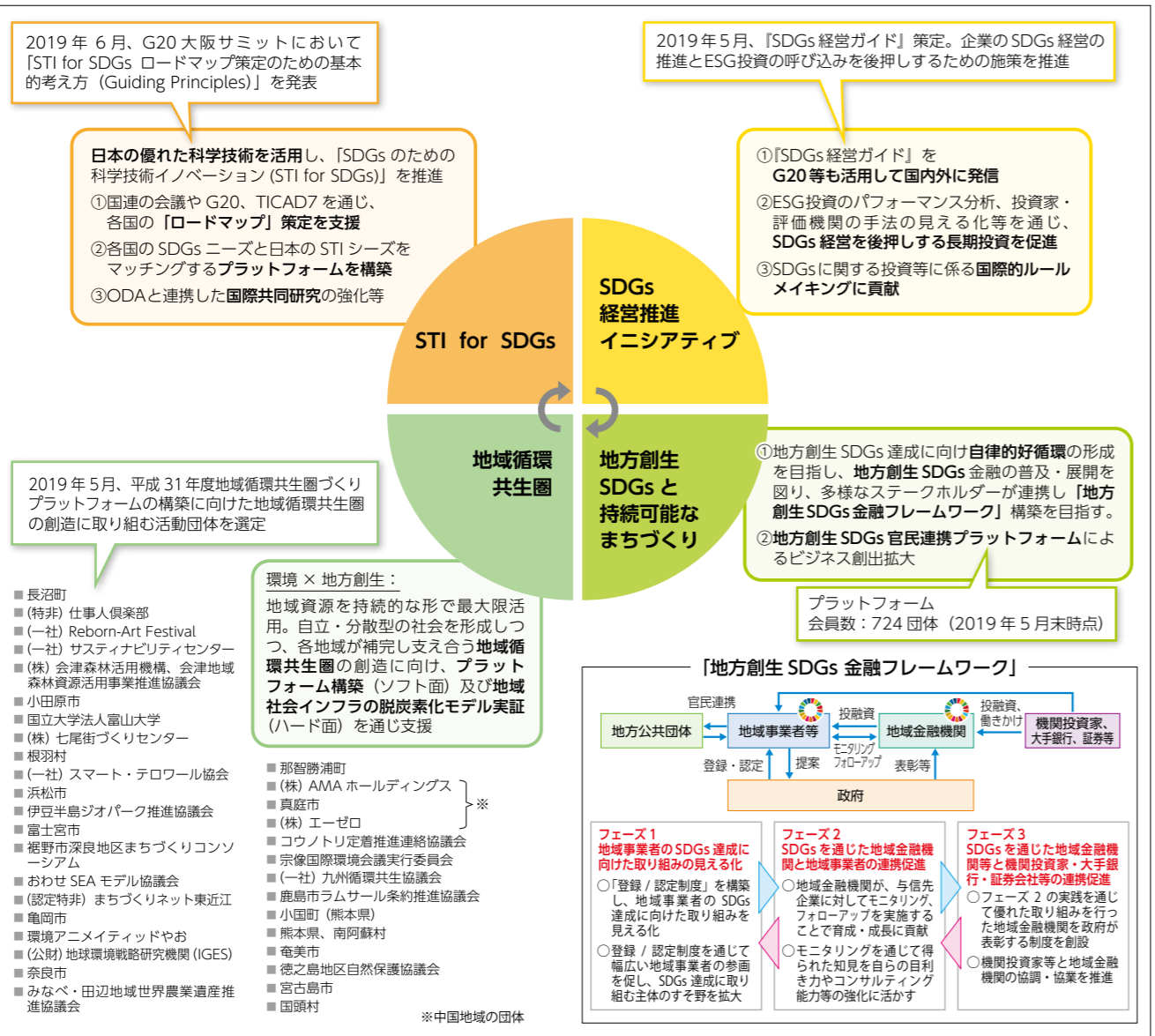
- I SDGsと連動する「Society5.0」の推進
- II SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり
- III SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

の3本柱を中核とする日本のSDGsモデルをG20大阪サミット、TICAD7（第7回アフリカ開発会議）、第1回SDGサミット*などの機会を活用して国際社会に共有・展開し、その上でこれらの各種取り組みを統合・発展させる形で「SDGs実施指針」を改定としている。



* 2019年9月にニューヨークの国連本部で開催されたサミット。各国首脳がSDGsについて議論し、2030アジェンダの進捗の報告とともに課題が示された。

拡大版SDGsアクションプラン2019における主要な取り組み



出典：SDGs推進本部「拡大版SDGsアクションプラン2019～2019年に日本がリーダーシップを発揮するSDGs主要課題～」(2019年6月)

解説 持続可能な開発目標(SDGs)とは

17のゴール・169のターゲット

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標である。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。SDGsは開発途上国のみならず、先進国も取り組む普遍的なものであり、日本も積極的に取り組んでいる。



244のグローバル指標

国連サミットの成果文書において、SDGsの進捗を測定するための指標は国連統計委員会で検討することとなった。そして、国連統計委員会や関連会合での議論を経て、2017年7月の国連総会において、全244(重複を除くと232)のグローバル指標からなる指標枠組みが承認された。

例：「8 働きがいも経済成長も」のターゲットとグローバル指標

包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

ターゲット	グローバル指標
8.1 各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率7%の成長率を保つ。	8.1.1 一人当たりの実質GDPの年間成長率
8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。	8.2.1 就業者一人当たりの実質GDPの年間成長率
8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。	8.3.1 農業以外におけるインフォーマル雇用の割合(性別ごと)
8.4 2030年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分析を図る。	8.4.1 マテリアルフットプリント(MF)、一人当たりMF及びGDP当たりのMF(指標12.2.1と同一指標) 8.4.2 天然資源等消費量(DMC)、一人当たりのDMC及びGDP当たりのDMC(指標12.2.2と同一指標)
8.5 2030年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。	8.5.1 女性及び男性労働者の平均時給(職業、年齢、障がい者別) 8.5.2 失業率(性別、年齢、障がい者別)
8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。	8.6.1 就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない15～24歳の若者の割合
8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終わらせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。	8.7.1 児童労働者(5～17歳)の割合と数(性別、年齢別)
8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。	8.8.1 致命的及び非致命的な労働災害の発生率(性別、移住状況別) 8.8.2 国際労働機関(ILO)原文ソース及び国内の法律に基づく、労働権利(結社及び団体交渉の自由)における国内コンプライアンスのレベル(性別、移住状況別)
8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。	8.9.1 全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP 8.9.2 全観光業における従業員数に占める持続可能な観光業の従業員数の割合
8.10 国内の金融機関の能力を強化し、全ての人々の銀行取引、保険及び金融サービスへのアクセスを促進・拡大する。	8.10.1 成人10万人当たりの商業銀行の支店数及びATM数 8.10.2 銀行や他の金融機関に口座を持つ、又はモバイルマネーサービスを利用する成人(15歳以上)の割合
8.a 後発開発途上国への貿易関連技術支援のための拡大統合フレームワーク(EIF)などを通じた支援を含む、開発途上国、特に後発開発途上国に対する貿易のための援助を拡大する。	8.a.1 貿易のための援助に対するコミットメントや支出
8.b 2020年までに、若年雇用のための世界的戦略及び国際労働機関(ILO)の仕事に関する世界協定の実施を展開・運用化する。	8.b.1 国家雇用戦略とは別途あるいはその一部として開発され運用されている若年雇用のための国家戦略の有無

未来につながるSDGs

SDGsを通じて

企業活動の意義を明確にする

株式会社荒谷建設コンサルタント 《広島市》

荒谷建設コンサルタントでは、三十代、四十代の社員を中心に「SDGs推進委員会」を立ち上げ、SDGsへの理解を深めている。SDGsをもとに事業や会社のあるべき姿を見つめ直し、次の百年のための土台づくりにつなげている。

青年会議所所属時に 国連関係会議に出席

中四国地域を拠点に測量、地質調査、土木設計を行う荒谷建設コンサルタントは、一九一六（大正五）年に広島市で創業し、創業百周年を迎えた二〇一六

（平成二十八）年に荒谷悦嗣社長が就任した。

荒谷社長が広島青年会議所に所属していた二〇一四（平成二十六）年に、日本青年会議所議長として参加した国連の国際青年会議所グローバルパートナーシップサミット（ニューヨークで開催）では、SDGsの前身となるミレニアム開発目標（MDGs）がテーマの一つとなっていた。



荒谷社長が委員長となって、2030年ごろに重責を担う30代、40代の社員を中心に「SDGs推進委員会」を立ち上げ、勉強会を実施している

「SDGs推進委員会」を設立

一般的に、企業がSDGsに取り組むことによるメリットは、国際的な動きに歩みを合わせることで、将来にわたって企業の成長を維持し、新規事業の開発や企業価値の向上、さまざまなステークホルダーとの関係強化が達成できることにあるといわれている。それらに加え、SDGsに各々の仕事を当てはめていくことで、社員一人ひとりが仕事の意義や社会における会社の役割を実感できることも大きな利点だと荒谷社長は語る。

「私自身、以前別の業界で社員として働いていたので理解できますが、従来のCSR活動は、社員からすると通常

必要で、そのためには私たちの成果が地球環境や地域社会に役に立つものであるべきだという意識を浸透させていきたいと思っています」

同社では、荒谷社長が委員長となつて、二〇三〇年に重責を担うこととなる三十代、四十代の社員十数人とともに、「SDGs推進委員会」を立ち上げ、現在勉強会を行っている。まずはSDGsに資する既存事業や取り組みを整理してWEB上で公表することから着手。次にターゲットを深く読み込みながら、各部署や各支社でどんな活動ができるかを検討し、今後全社的に展開していく予定だ。来年以降は年次事業計画もSDGsに合わせて作成していくという。



同社で導入しているMMS（モービルマッピングシステム）は、自動車にカメラと三次元レーザーキャナを搭載し、道路や周辺環境の映像や三次元データを取得する方法。ICTを活用した建設生産プロセス「i-Construction」の一環であり、こうした技術を生かしてSDGs「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」に取り組んでいる

が新たに採択されると、その後、SDGsがさまざまな場で取り上げられるようになり、荒谷社長は青年会議所で得た知見を会社にも広めたいと、改めてSDGsを学び直すことにした。

「MDGsは、開発途上国の開発課題が中心で先進国はそれを援助するという位置付けでしたが、SDGsでは先進国が取り組むべき課題が大幅に拡充されていきました。水やエネルギー、海や陸の豊かさ、まちづくりなど、私たちの仕事に大きく関係する目標もあります。だからこそ積極的に取り組んでいくべきだと考えました」

ターゲットの読み込みにより 会社としての目標が明確に

どのようにSDGsに取り組んでいくかを考える上で、最初に行ったのは十七の開発目標とともに、付随する

企業活動全体を SDGsの目標に合わせていく

二〇一八（平成三十）年に広島県働き方改革実践企業に認定された同社では、これまで女性の働き方プロジェクトチームや働き方改革委員会を設置し、仕事と家庭を両立しながら定年まで働き続けられる職場づくり、ワークライフバランスの実現、女性の活躍推進に向けた取り組みを続けてきた。

また、再生可能なエネルギーを地域で循環させることを主眼に、地域資源を活用した小水力発電設備や木質バイオマスを活用した小規模なボイラー設備も設計している。さらに、建築物だけでなく広域の土木の視点を生かしたまちづくりの実現のために、広島県内各所でエリアマネージメント事業にも



港湾の事業では、現地状況の調査、各種数値解析（波浪・漂砂・潮流等）、施設の設計などを行う。砂浜の保全、干潟や浅場の創出、水質の汚濁防止対策等の計画により、水辺や海洋の多様な動植物の生息・生育環境の保全・創出などに関連したSDGs「14 海の豊かさを守ろう」に取り組んでいる

百六十九のターゲットを読み込んでいくことだった。例えば、「2 飢餓をゼロに」の目標には、「二〇三〇年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する」などの八つのターゲットが掲げられている。より具体的に設定されたターゲットを読み込むことで、既存の自社の事業がどう関係しているか、このターゲットの達成のために、会社として何をすべきかが明確になったと荒谷社長は話す。

「『飢餓をゼロに』という目標は、社会資本整備を生業とする私たちには一見あまり関係がないもののように思えますが、ターゲットを見ると、気候変動や災害対応などが社の業務に大いに関わることも記述されています。このターゲットを指標にしながら、将来に向けた会社の方向性や動きを合わせていくことが大切だと思います」

参画してきた。

今後は、同社の主要事業である社会資本整備を含め、これらの企業活動全体を、健康と福祉、ジェンダー平等、エネルギー、働きがい、住み続けられるまちづくりなどのSDGsの目標に当てはめてより深めていく予定だ。

地域や社会への強い意識は、これまで同社が中四国を拠点に地域密着で事業を展開してきたこと、広島青年会議所での経験が大きかったと荒谷社長は話す。

「広島青年会議所に在籍時、自分たちがいかに地域に生かされているかを学びました。とりわけ、所属して二年目の時には、広島市の未来地図を描く『広島・夢の未来地図』のプロジェクトに参加し、共通の指標があれば一企業として地域のためにできることはまだまだあると実感しました。SDGsも、世界共通の目標があることで企業の取り組み方が変わるという点に大きな意味があると考えています」



荒谷悦嗣社長

未来につながるSDGs

知育玩具の販売を通じ、 開発途上国の子どもたちに 学習道具を提供

IPPOLABO合同会社 《鳥取市》

商品が購入されると、開発途上国の子どもたちに学習道具が提供されるという「demi」プログラムを実施するIPPOLABO合同会社。SDGsの目標「4 質の高い教育をみんなに」への貢献を目指す同社では、「世界中の人びとに学ぶ道具を、学ぶ機会を」の理念の下、プログラムの拡大に力を入れている。



開発途上国の子どもたちの学びの場をどう支援するか
IPPOLABO創業者の田中大一さんは鳥取市の高校を卒業後、英語教師を目指して大阪教育大学に入学した。大学一年生のときにカンボジアでのボランティア活動に参加し、ブルーシート

で覆った空間で勉強する現地の子どものたちの環境に衝撃を受ける。以来、開発途上国の教育環境を良くしたいとの思いを持ち、大学卒業後、東京外国語大学大学院で国際協力を専門的に学んだ。大学院修了後は、政府開発援助(ODA)などでの調達業務やプロジェクトマネジメント業務を行う専門機関の一般財団法人日本国際協力システムに入職し、東南アジアや西アフリカで学校を設立するプロジェクトに携わっ



西アフリカの学校建設プロジェクト担当時の田中さん

てきた。
ニジェールやコートジボワールなどの国々を担当する中で、田中さんの人生を大きく変える出来事があった。政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「SPORT FOR TOMORROW」の一環として、マラウイ共和国で運動会を開催する事業に関わったとき、参加した子どもたちに参加賞のボールペンを渡すと、多くの子がペンを大事そうに手に握りしめていた。

「ODAでは、教員養成の支援や、施設・椅子・教科書といった共有物の提供はできても、個人の所有物となるノートや筆記用具は提供できません。そのため、学校が建てられても、自分の道具を持っていきまの子どもたちが何人かいるのです。自分の手で文字を書いたり、計算したりといった基礎的な経

ない。IPPOLABOの寄付により、このフリースクールでは毎月、新品のノート一冊と鉛筆一本、消しゴム一個を、約百人の児童たちに提供している。「お客さまからお預かりしたお金を使って、現地の子どもたちに学習道具をきちんと届けるには、まずは学校と信頼関係を築いているNPOやNGOと協力する方が確実と考えました。ここで勉強した子どもたちが今後どう成長していったかという過程も、これから情報発信していきたいと思っています」



ノートやペンを手にする子どもたち



2018年はフリースクールの年間運営費の4分の1に当たる金額をIPPOLABOで寄付した



IPPOLABOの商品の売り上げの一部を学習用具の購入資金に充て、フリースクールに寄付

自然にサポートできる 仕組みをつくる

個人寄付が盛んな米国に比べ、日本は寄付文化が希薄といわれる。だからこそ、商品販売価格の中に初めから寄付金分を組み込み、誰でも自然に国際協力活動に参加できるように仕組みをつくるのが大切だと田中さんは話す。

「国際協力や寄付を前面に押し出すよりも、消費者がかわいい、楽しんで買ってくれる親はほとんどい

そうと思って買った商品が、実は国際協力に貢献しているという状況を作った方が、結果として多くの人を巻き込んでいけるのではないのでしょうか」
現在、大手ソフトウェア会社の子ども向けのおもちゃを制作するなど、他企業との協働も増えつつある。また、教育そのものをコンテンツと捉えているIPPOLABOでは、かけっこ教室や木工のワークショップなど、子どもの第一歩を応援するさまざまな催しを定期的に開いてきた。こうした活動により、二〇一八(平成三十)年に設立したばかりの会社の認知度も上がっている。「二つの活動を大きくしていきたいながら、いずれ実店舗を出したいと思っています。昨年は、インドで関わっているフリースクールの年間運営費の四分の一に当たる金額をIPPOLABOで寄付しました。この寄付を継続しつつ、別の形でも支援し、プログラムをさらに大きくしていきたいと思っています」



0歳児から遊べる積み木「demi」



建具店が一つ一つ手作りしている組み木玩具「タテグ」

発途上国の教育環境の改善を支援するというIPPOLABOのビジネスモデルが形作られた。
最初に誕生したオリジナル商品「demi」は、鳥取県産のヒノキを使用した積み木だ。さまざまな形のパーツは、それぞれ赤・黄・青に色づけされており、にぎる、つかむ、色を認識する、といった0歳児からの成長を後押しする。
「三歳ぐらいで積み木に飽きてしまう子もいるので、長く使ってもらえるようにプログラミング学習に生かすなど、別の遊び方も提供していきたいと考えています」
もう一つのオリジナル商品、組み木

玩具「タテグ」は、パーツをはめこみ、組み立てることでより想像力を育む知育玩具だ。各パーツは、鳥取県智頭町の藤縄建具店が一つ一つ手作りしている。そのほかに、出産祝いとしても人気が高い天然素材の玩具も販売している。これらの商品の売り上げの一部は、現在、インドのビハール州でフリースクールを運営するNPO法人AOZORAを通して、学習道具の購入資金に充てられている。AOZORAが運営するフリースクールは、地域の中でも貧しい地区にあり、住民の平均的な日給は約三百円、年収は五万円ほどだ。一方、ノートは一冊四十円もするため、子どもに買ってあげられる親はほとんどい

未来につながるSDGs

官民連携で成果連動型の健康づくり事業を推進

おかやまケンコー大作戦 《岡山市》

岡山市は、企業や市民と連携した健康ポイント事業を進めている。市民の健康づくりのために地元企業がさまざまな商品やサービスを提供する取り組みで、企業や市民からの出資で事業を進め、成果に応じて出資者に償還金を支払う手法を導入したのが特徴だ。

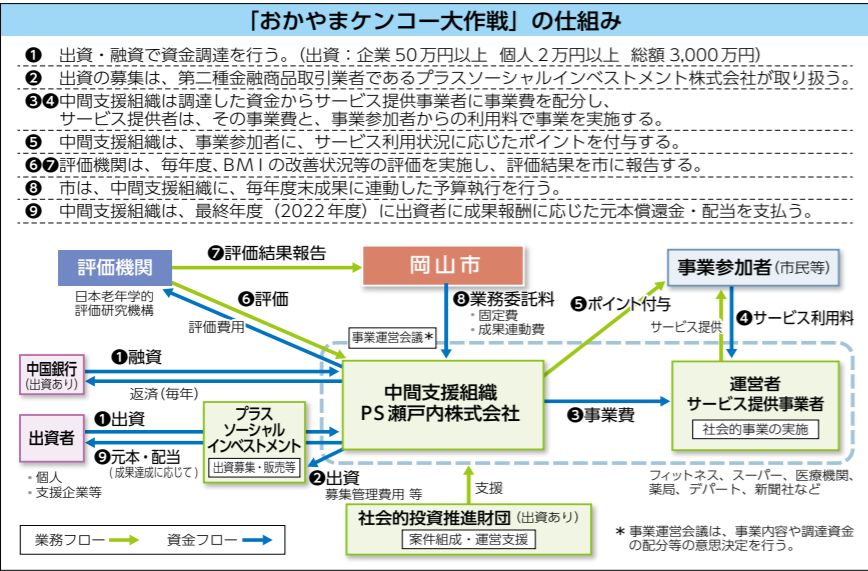
国内最大規模のSIB事業

内閣府のSDGs未来都市に選定されている岡山市は、「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」を目指

し、さまざまな事業を展開している。SDGsの「3 すべての人に健康と福祉」の実現に向け、地元企業等と連携して進めているのが、二〇一九（平成三十二）年四月に開始した健康ポイント事業「おかやまケンコー大作戦」である。プログラムに参加した市民が加盟店から健康に結びつく商品やサービスを購入・利用するとポイントが付与され、ポイント数に応じて特典が得られる仕組みで、市民の健康づくりの促進を目的とする。



ウォーキングイベントへの参加もポイントの対象



資料提供：岡山市

よってサービス提供事業者が事業を行い、⑤PS瀬戸内に参加者へポイントを付与して参加者へポイントを付与し、⑦評価結果を岡山市に報告、⑧岡山市は成果に連動した業務委託料をPS瀬戸内へ支払い、⑨PS瀬戸内は最終年度後、出資者へ成果報酬に応じた償還金を支払う——という流れになっている。

その特徴は、複数の地元事業者が健康関連サービスや資金を提供し、また、出資者を広く募り、成果連動型業務委託方式のSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）を導入したことである。SIBとは、



事業開始に先立って行われた記者会見



加盟店で開発・販売している健康に配慮したお弁当

行政から業務を委託された事業者が、民間資金を活用して社会的課題を解決する公的サービスを行い、その成果に応じて支払われる委託料をサービスや資金の提供者に還元する仕組みだ。事業期間は二〇二一年度末までの三年間、準備期間を含めた五年間の事業費は約三億七千万円で、SIBによる事業では国内最大の予算規模となる。「岡山市は、市民の平均寿命と健康寿命（自立した生活が送れる期間）の差が全国の中でも大きく、つまり要介護となる期間も長いと考えられることから、健康寿命の延伸が大きな課題となっています。そのため市民の健康づくりを誘発する健康ポイント事業をこれまでも行っていました。民間のノウハウと資金を活用し、まち全体で健康づくりに取り組みたいと二年前から官民協働で検討し、SIBを導入する

最終目標は市民の健康生活

ポイント事業への参加対象者は、三十五歳以上の岡山市民で、参加費は無料。個人のほか、市内企業・事業所等での十人以上の企業参加も募集しており、その場合は市外在住者も参加できる。参加申し込みを行うとポイントカードが配付され、加盟店でサービスを利用してポイントを貯めると、一年間のポイント数のランキングに応じて商品券や特産品などの景品がもらえる。SIBの成果目標は、初年度の二〇一九年度は一万五千人の参加者の登録、翌年度はプログラム参加者のうち八割以上が生活習慣・食生活の改善を意識していること、最終年度は週二回以上のサービス利用者（リピーター）が九千人を上回ることであり、その達成度に応じて岡山市は毎年度末に二千五百万円を上限とする委託料をPS瀬戸内に支払う。さらに、最終年度終了後に、参加者のBMIの改善または身体活動量の増加の割合に応じた成果報酬金として最大二千万円を支払う。生活習慣やBMIの改善などは、評価機関が参加者へのアンケート結果に基づき評価する。「各年度目標を達成すると二千五百万円が委託料の一部として入ってきて翌年

ことになりました」市から業務を委託され、中間支援組織として事業の運営を行うPS瀬戸内株式会社社長の石原達也さんはそう経緯を話す。同社は、NPO法人岡山NPOセンター代表理事を務める石原さんが、SIBで社会的な課題を解決することを目的に設立した会社である。「株式会社中国銀行や一般財団法人社会的投資推進財団とも連携し、二十社ほどの地元サービス提供事業者で事業を進めています」

三千万円の資金を調達

事業の仕組みは、①PS瀬戸内が融資・出資で資金を調達、②出資募集は金融商品取引資格を持つプラスソーシャルインベストメント株式会社社が取り扱い、③調達資金から配分された事業費と④参加者のサービス利用料に

度の事業費となります。そして、最終年度末に払われる委託料と成果報酬金の合計金額に応じて出資者へ元本と配当を分配します」と石原さん。目標を達成しなければ当然、出資者は元本割れのリスクを負う。ただし、目的は岡山市民の健康生活の促進なので、サービス運営基盤であるシステム費用や参加者への景品代などは岡山市が別に予算化しており、事業が行き詰まる恐れはない。参加者は八月現在六百四十人で、初年度末の目標達成に向けて参加者募集に一層力を入れるという。石原さんは、公共サービスの効率性と質を高める上で、民間や市民の社会的投資を引き出して成果達成を図るSIBは有効な手法になると強調する。「民間の事業の中には、公共性の高いサービスもあります。SIBによってそれを認め直し、民間による新たな公共サービスの形を構築することができるとは思います。岡山市のSDGsの目標である健康なまちづくりにも力を発揮すると思います。今後は、福祉や雇用など、他分野での活用も図っていきます」



「岡山市内の企業やグループ、個人での健康ポイント事業への参加を募集しています」と話すPS瀬戸内株式会社社長の石原達也さん

写真提供：PS瀬戸内株式会社

※BMI…Body Mass Index (体格指数)。身長と体重から算出される肥満度の指数。



商品を通じ、人と人の絆を届ける

株式会社ちむら 代表取締役 千村直美 《鳥取市》

身近な上質を商品や空間に表現

智頭杉の梁があらわになった吹き抜けの明るい空間に、見やすいように高さを抑えた陳列ケースが並ぶ。食欲をそそる作りたての惣菜のテーブルの奥には、とうふちくわを製造する従業員の姿が見える。蒸気でガラスが一瞬曇ることに、その熱気が伝わってくるようだ。

店内に掲げられた「鳥取の誇り30選」の掲示板には、とうふちくわ、佐治石、因州和紙、鳥取和牛、らっきょう、白ネギなどの鳥取の特産品の名が連なる。改めて店内を見直すと、因州和紙を使った照明、鳥取和牛やカレーの商品など、それらが全て店内のどこかに置かれていることに気づく。まるで食のテーマパークのようなこの店舗は、二〇一九（平成三十一）年四月にリニューアルした「とうふちくわの里 ちむら布袋店」である。「店舗のコンセプトは、身近な上質、鳥取の誇り、進化し続ける老舗です。大事な方にこの商品を贈りたいと思っただけのように、身近な上質を商品にも空間にも表現したいと考えました」と企業家は語ってくれた。五代目となる株式会社ちむらの千村直美社長である。

鳥取市河原町にあるこの布袋店は、千村社長の就任後に操業を開始した工場併設の直売店だ。「第二の創業」と語

るこの店の開店以降、さまざまなドラマがここで繰り広げられてきた。

量が求められる時代に高付加価値にこだわる

ちむらは、一八六五（慶応元）年に鳥取市元魚町で創業した。店の前を通る魚町通りは江戸時代に鳥取随一のにぎわいを見せた場所で、魚や豆腐、ちくわ、野菜を売る店が軒を連ねたという。

鳥取県東部の郷土料理であるとうふちくわは、魚が贅沢品だった時代、藩の財政難を背景に鳥取藩主の池田公が「魚の代わりに豆腐を食べるように」と奨励して生まれたといわれる。一般的にちくわには魚肉が使われるが、とうふちくわは本綿豆腐と白身魚のすり身を七対三の割合で混ぜて作られる。創業当時、とうふちくわを作る店はちむら以外にも魚町通りに数軒存在していた。

鳥取では、ちくわは日常の食卓に並ぶ身近な食材でありながら、ハレの日にも食す特別な食材でもある。「ちくわによってその場がにぎわうことで、人々に喜んでもらいたい」。そうした気持ちで創業者から二代目、三代目、四代目へと大切に引き継がれてきたと千村社長は語る。

三代目の千村清吉氏は、千村社長の祖父にあたる。早朝に作ったとうふちくわをリヤカーにのせて、元魚町か

ら三十キロも離れた若桜町まで売りに行っていたという。

そして、父にあたる四代目の千村巖氏は、強力なライバル店がいる中で、ちむらの新しい販路を開拓しようと、百貨店との取引を始めた。

「量が求められる時代に、あえて付加価値をつけることにこだわった。それにより本物を作るといふ会社の姿勢につながっていったと思います。当時、他社では『作っても作っても注文が来る、なんぼでも売れる』という声が上がっていたようですが、祖父や父はたくさん作って売るのはなく、価格に見合った価値を認めていただけの場所で勝負したいと考えたのです」。これが、ちむらという会社にとって大きな出来事だったと千村社長は振り返る。

昭和三十〜四十年代、一流の売り場であるデパートは人々の憧れの場となり、ブランドでもあった。ちむらは、鳥取大丸を皮切りに、東京の大丸、三越、高島屋へと取引先を広げていった。

「父は常に『本物を作れ、付加価値の高いものをつくらなさいといけない』と話していました。価格は多少高くても、その価値を認めてくださるお客さまが現実にいらっしやう。その一人一人との関係を大事にすることが重視された時代だっただけではないかと思えます」



布袋店に掲示された「鳥取の誇り30選」



2019年4月にリニューアルオープンした「とうふちくわの里 ちむら布袋店」

profile

千村直美(ちむら・なおみ)
1955年鳥取市生まれ。神戸大学経済学部卒業後、同業大手他社に就職し、1980年に株式会社ちむらに入社。1999年代表取締役就任。従業員数55名。

文: 城市 奈那 写真撮影: 青木 幸太 (鳥取市在住)



創業の地にある元魚町本店も2018年4月にリニューアルオープンした



リニューアルオープンを記念し、書家の紫舟氏から贈られた絵。新しいパッケージの「豆腐竹輪」のロゴも紫舟氏によるものだ



7年前から従業員みんなで新商品を開発している。「気軽に開発、毎週一品、二人一品」を目標に掲げ、実際に商品にして店舗で1週間販売する



魚肉やとうふに野菜や椎茸などを練り込んだヘルシーなとうふステーキ



木綿豆腐と白身魚のすり身を7:3の割合で混ぜて作るとうふちくわ。布袋店のリニューアルに伴い、パッケージデザインも刷新した

心を燃えさせた 銀行の一言

千村社長は大学を卒業後、二年間同業大手他社で働いたのち、一九八〇（昭和五十五年）年にちむらに入社した。「父は経営者というよりも職人に近かった」と千村社長。銀行との交渉は巖氏ではなく、母が担っていた。その母は、「他にも行く所はある、どうして帰ってくるのか」と戻ってくることに反対していた。元魚町の工場を全面改築したこのころが、経営面では一番苦しいときだった。夢と希望を持って帰ってきた千村社長は「なぜこんなことを言うのだろうか」と思ったが、入社して会社の現実を知った。千村社長は父と母に代わって、銀行との交渉を担当した。「今思えば稚拙な資金繰り計画を持って銀行にいったとき、貸付担当者から言われた一言が今も忘れられない。「ちむらさん、あなたのところの社長は、銀行はなんぼでも金を貸してくれると思ってるんですね」自分の慕っていた父親が、こんなに低い評価を受けたことが悔しかった。「今に見ていろ」という思いが湧き上がり、この経験が千村社長の根っこになった。まずは、無借金経営をすること、それが当面の経営目標になった。

リスクを背負った 第二の創業

いわしつみれなどの新商品のヒットや、販路を地元のスーパーや土産物店まで広げたことにより、目標としていた無借金経営を六年ほどで達成した。一九九九（平成十一年）年に代表取締役就任した千村社長は、直売店の規模も小さく、創業地の工場も手狭になったことから、工場を移し、新しい店舗を開こうと考えた。「とうふちくわをもっと価値の高いものにしたという思いがありました。日常食でありながら、他の地域にはない珍しい食材なので、お土産として買われることも増えてきましたが、安いから、手軽だからという理由で手にとってもらうだけではないのかと。味、品質、デザインを含めて変えることで、江戸時代から伝わるとうふちくわの価値をもっと高められるはずだと思ったのです。そのためには、工場の設備を一新し、情報を発信できるお店を持つことが必要でした」移設地に決まったのが、現在布袋店が立つ鳥取市河原町だった。兵庫・岡山方面に抜ける鳥取自動車道が近く開通するという情報が立地の決め手となった。ここであれば、社員の働く環境も良くなるはずだと自信が持てた。「銀行に事業計画書を持っていったとき

い」と訴えられた。

最新設備を導入し、衛生環境も整えているのになぜこんなことが起こるのか。看板商品のとうふちくわが製造できないような状態では会社はどうなるのか。保存料、着色料、香料が無添加なのがちむらの商品の特徴だったが、「背に腹は代えられない、保存料を入れるか……」との考えが脳裏をかすめた。

そんな悪魔の囁きを跳ね返すことができたのは、経営理念に向き合ったからだ。「私たちは、安全で健康に良い美味いちくわ・かまぼこ作りを通して、お客さまの安心と幸福を創造します」。自ら明文化したこの理念によって、自分たちは守られたと千村社長は振り返る。

結局、原因を突き止め、最終的に解決するまでに一年を要した。毎日現場を見ても原因がわからなかったが、ある大手スーパーの商品検査で特定の菌の数値が悪いことがわかり、その原因を辿っていくと、洗浄、殺菌、消毒に関わる製造工程の一部に不備があることがわかった。

この経験を経て、食品安全管理マネジメントシステムの国際規格であるISO2000の取得に取り組み、二〇一〇（平成二十二年）年に取得した。さらに、フードデیفENSE（食品防御）やアレルギー管理方法を加えたFSSC22000を二〇一六（平成二十八年）年に取得した。

責任感、使命感、誇りを 社員に持ってもらうには

二〇〇二年に会社最大の危機が起きたものの、過去最高の売上高を出すまでに順調に売り上げを伸ばせたのはなぜか。それは、紛れもなく社員の力だと千村社長は胸を張る。

布袋店開店以降、ちむらでは社員教育に力を入れてきた。食品製造は社員一人一人の責任感、使命感、誇りが生命線となる。それらを社員に持ってもらうにはどうするか。社長が言葉で伝えるだけでなく、お客さまの声を社員に届けることが一番ではないかと千村社長は考えた。「とうふちくわを遠方の親戚に贈ったら、『懐かしい味』と喜ばれた」「入院中にとうふちくわなら食べても良いと許可が出て、父にあげたら泣いていた」

そんなお客さまからのエピソードを映像にまとめ、社員に見せている。とうふちくわを通して、贈り手と受け手の人生をつなぐ。それこそがちむらの仕事だ

には、「こんな田んぼの中にお店を出したって、誰が来るんですか。一日五人くらいしか来ませんよ」と言われたのを覚えています。でもうまくいくはずだという自信がありました」

最新設備を導入し、二〇〇二（平成十四）年四月に布袋店がグランドオープンした。新しく従業員を採用し、商品も一新。リスクを背負った「第二の創業」だった。それでも、鳥取砂丘に向かう人が途中で立ち寄るなど、想定を超える来客があった。

会社に訪れた最大の危機

四月のオープンから一カ月が経ったゴールデンウィーク前、スーパーから一本の電話がかかってきた。「とうふちくわが腐っているようだ」受話器を置くと、また別の店からも同じ内容の電話がかかってきた。明くる日も、その翌日も電話が鳴り止まない。電話の音が鳴るたびに、びくびくした。その日の朝に作ったとうふちくわを冷蔵庫にいられても、夕方に糸を引きぬるぬるとした状態になったのを見たとき、千村社長は真ッ書になった。原因が判明しないまま十日が過ぎた。あるスーパーからは、「おたくの商品がお客さまから一番人気があって、売れている。でもこれ以上クレームが続いたら、取引できな

と捉えている。

「私たちは何を売っているのか。とうふちくわという『物』じゃない。人と人をつなぐ深い絆を届けているんだ。そういう気持ちで仕事をしようと呼びかけています」

さらに、人材育成の一環として、経営雑誌を毎月社員全員に提供し、その感想文を提出してもらっている。十代から七十代までのそれぞれの社員が、記事を読んでどう思い、どのように自分の仕事や人生に照らし合わせたかを、自分の言葉で紡いでいる。千村社長はその全ての感想文に目を通し、自らコメントを書き込んで渡している。この取り組みをもう十六年以上続けてきた。

今、ちむらの名刺には「食文化を繋ぐ200年企業」という一文が書かれている。二年後の春に社長を引き継ぐ予定の、千村社長の長男が考えた経営ビジョンだ。六年前にこの言葉が生まれたときに、未来へと続く時間の流れが自分の中で明確になってきたと千村社長は話す。「永続する会社でなければ、社員の幸福は実現できません。そして、ちむらの商品を求めてくださるお客さまのために、永続が必要なのです。私どもの商品を通して、お客さまや社員が少しでも幸せになるように、これからもお手伝いしていきたいと思っています」

「自然に学ぶ味噌づくり」を理念に、人々の健康に貢献し、食文化を守る有限会社まるみ麴本店

〈岡山県総社市〉

農業や化学肥料の普及により麴の原料となる米が劣化する中、素材本来の力を引き出す製法と出会い、味噌や甘酒に活用。自然に向き合いながら、良質な麴づくりを続けている。

農業や化学肥料の普及により 麴の原料となる米が変化

まるみ麴本店は一九五〇（昭和二十五）年、岡山県総社市北部の美袋で、農家から預かった米を麴にする委託加工を商いとして創業した。実は創業者の山辺光男氏（現・会長）は当初、全く異なる事業を展開しようと考えていた。戦後、食生活の欧米化が見込まれる中で、商社に勤める親戚から、従来の醤油の代用品としてアミノ酸醤油の製造を薦められ、アミノ酸の製造方法を研究した。大豆のたんぱく質を塩酸で加水分解してできるアミノ酸を使った醤油を開発し、地元で売り始めたが、旨味はあるものの匂いが悪いアミノ酸醤油は評判が悪く、製造を取りやめた。「生活スタイルが変わっても、日本古来の酒、味噌、醤油などの味は一朝一夕には変わらない」と実感し、

微生物の力によって発酵する本来の醸造を学び直そうと決意した。

醤油、味噌、酒、酢など、発酵作用によって作られる食品はすべて、米・麦・大豆などの穀物に麴菌を生育して作る「麴」を必要とする。味噌の場合、米味噌は大豆に米麴を加え、麦味噌は大豆に麦麴を加えて作る。麴を作る麴屋は当時美袋にはなかったため、米を蒸す設備と麴を作る小さな麴室を自前で揃え、米麴を作る麴屋として再スタートを切った。

その頃、北は高梁、南は倉敷までの農家から米を預かって麴にしていたが、高度経済成長期に水島コンビナーが活況を呈すると、平日はそこで働き、日曜日だけ農業をする兼業農家が急増した。手入れの回数を減らすため、化学肥料や除草剤を使って米作りをする農家が増え、麴用に預かる米の質がだんだんと劣化していった。

消費者の間でも口コミで広がり、全国から注文が寄せられるようになっていく。

米麴を使った甘酒の健康効果を研究

現在、山辺社長が力を入れているのが、腸内細菌の研究だ。同社の主力商品の一つである米麴から作られる甘酒を飲むことで、腸内環境がどう変わるかを地元の大学教授と研究している。

人の腸内環境を改善する有用菌類を増殖させるために働く食品成分はプレバイオティクスと呼ばれる。これは、有用菌を直接体内に取り込むプロバイオティクスとは異なるが、どちらの方法にしても、腸内環境を整えるには、乳酸菌やビフィズス菌などの有用菌を増やすことが大事とされている。

「当社の甘酒は加熱殺菌しているため、菌自体は死んでいますが、テスト結果から、甘酒を飲むとビフィズス菌が増えることが分かってきました。プレバイオティクスとしての効果です。寝たきりの人は腸内環境が悪くなる傾向があるため、元気になるために甘酒が生かせないかと考えています」

現在は、介護施設のほかスポーツ関係者からも声がかかり、テストを進めているという。

麴は、蒸した米の表面に麴菌をつける種付けを経て、菌糸が根を生やして繁殖することで出来上がる。麴ができるまでに二昼夜を要するが、劣化した米は保水性が悪いため、この二昼夜の間に乾燥してしまう。乾燥した米では、麴菌は十分に繁殖できないため、麴づくりの途中で加水が必要になっていった。良いものを作ろうと手間がかかる作業に尽力する中で光男氏の疲労はピークに達し、体調を崩した。

電子イオン水と備長炭による 味噌づくり

「麴は歴史が古く、百年、二百年の歴史を持つ企業が少なくありません。わ



米麴で作った「麴屋のあまざけストレート」。必須アミノ酸やビタミンなど天然の栄養素が多く含まれている



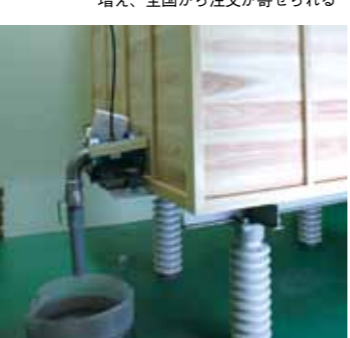
定番商品の粧（こうじ）みそ「美袋乃唄」



特注で作った吉野杉の木桶



創業時から作り続けている「米こうじ」。最近では自宅で味噌を作る人が増え、全国から注文が寄せられる



電子イオン水を製造する装置。床下には備長炭を敷き詰め、罫子（がいし）で絶縁。清流高梁川の伏流水を原料とする電子イオン水により、まろやかな味わいの食品が生み出される



まるみ麴本店外観



山辺啓三社長

自然を敬い 正しく向き合う

同社のある美袋駅周辺は、平成三十七年七月豪雨で道路が冠水し、本社と工場も1mの高さまで浸水した。幸い、早めに水が引き、電気の復旧も早かったため、比較的早期に営業再開できたが、この体験で自然の恐ろしさを再認識したと山辺社長は話す。

「自然は人の力が及ばないものである」という畏敬の念を抱きながら日々生活することが大切ではないでしょうか。われわれが扱う麴や味噌についても同じことがいえます。人間は自然を意のままにコントロールできませんが、自然を敬い正しく向き合えば、その恵みを引き出すことはできます。その思いが込められた当社の経営理念『自然に学ぶ味噌づくり』の下、これまで以上に地域の皆さまの健康と食文化に貢献していきたいと思えます」

それ以来、同社ではこの方法を米、麦、大豆などの原材料にも用い、さらに蔵の床下に炭を敷き詰めてマイナスイオンの多い環境をつくることにも力を入れてきた。これらの方法により、大豆の発芽率が上がり、菌の生育にも良い効果が見られているという。

味噌の味もまろやかで「おいしくなった」と地元の消費者から好評を得た。近年は、自然農法に関心のある

誰でも、いつからでも、音楽を楽しめる環境を プロデュースする。ピアニスト渡邊 朋子さん

ピアニストとして幅広く演奏活動を続けながら、初心者でも気軽に通える三十分個人レッスンのピアノ教室「I Love Piano」を運営。これまでピアノに親しんでこなかった人たちにもすそ野を広げる、新しいスタイルの教室として注目されている。



profile

渡邊 朋子(わたなべ・ともこ)

株式会社ワタナベミュージックラボ代表取締役社長

広島県出身。4歳よりピアニスト宮沢明子に師事し、1986年、『ベーゼンドルファーインベリアル国際ピアノコンクール(ヤングピアニスト部門)』にて最年少で優秀賞を受賞。翌年に米国へ留学。1989年に帰国後、日本大学芸術学部に入學。これまでCDアルバム『ピアノワークス』、『ブルグミュラー 25の練習曲』、『ピアノワークス2』を発表したほか、ソロリサイタルを行う。幅広い演奏活動を続けながら楽器店・音楽教室の代表として音楽のすそ野を広げる活動に取り組んでいる。

文：藤沢 享乃 (広島市在住) 写真撮影：芥川 博之 (広島県府中町在住)

誰でも気軽に楽しめる 音楽教室が原点

JR山陽本線三原駅から徒歩三分、ヤマハピアノの大きな看板が目を引くワタナベミュージックラボ三原駅前センターは、コンサートホールを完備した音楽教室兼店舗だ。ここを拠点にプロのピアニストと代表取締役社長の二役をこなしているのが渡邊朋子さん。実家は祖父の代から続く楽器店で、現在、三原市を中心に広島、岡山両県内で二十五軒の音楽教室・英語教室を運営している。調律師の父と三原市で市民ミュージカルに尽力する母の間に生まれ、ピアニストらしい華やかさをまとっている。

しかし、渡邊さんは「ピアニストを目指そうとは全く考えていなかった」と語る。

「私の原点は、誰でも気軽に楽しめる音楽教室。私にとってピアノは空気のようにいつもそこにあるものでした」

ピアノは楽しむもの

四歳からピアノを習い、一九八六(昭和六十一年)年には国際ピアノコンクールで優秀賞を受賞するなど、ピアノとともに人生を歩んできた。

ピアノが大好き——その思いだけ

でピアノと向き合っていた渡邊さんが違和感を覚えたのが、米国留学時だ。他人と競い合う厳しい世界で、いつしかピアノは優秀を競うための道具になっていった。「ピアノって、楽しいものじゃなかったの?」。帰国して日本大学芸術学部に入學すると、その思いはさらに強まった。

そこで渡邊さんは、ソロピアニストとしてリサイタルを行いながら、ピアノの楽しさを再発見するよう新たな新しい活動を始める。電子オルガンとのアンサンブル「デュオシユリンクス」を結成し、各地で公演したこともその一つである。さらに、ナレーターとよたの常田富士男氏や森本レオ氏の朗読とともにピアノを奏でる音楽物語のコンサートなどにも精力的に参加してきた。

会社を継ぎ、

故郷に恩返しするため帰郷

東京を拠点に、大好きなピアノや音楽仲間と過ごす日々は本当に楽しかった。このまま自分の夢を追いかけていたいという思いもあった。しかし、一人っ子である渡邊さんは、祖父の代からのワタナベミュージックラボを継ぐために、三十代半ばで帰郷を決心。その決心の中には、自分を育ててくれた故郷に恩返しするなら、今かもしれないと

いう思いもあった。

「帰ってきた時は、自分に何ができるのかという迷いもありましたが、今は帰ってきて本当に良かったと思っています」

二〇〇八(平成二十)年に三原室内管弦楽団と協演したほか、東日本大震災後の二〇一二(平成二十四)年にはみはら震災復興支援チャリティー・ガラ公演に出演するなど、地元での活動を徐々に広げていった。

通いやすさ、楽しさを重視した 「I Love Piano」

故郷で演奏活動を続けながら、ワタナベミュージックラボの経営に参画し始めると、新しいビジネスモデルのアイデアが次々と湧いてきた。

その中で生まれたのが、二〇一五(平成二十七年)年から始めた音楽教室「I Love Piano」である。

これまでワタナベミュージックラボで展開してきた「ヤマハ音楽教室」は、所定のカリキュラムに則って、生徒を指導する。ヤマハ音楽教室は今でも事業の一つだが、共働き世帯が増えて、子どものお稽古ごとのために毎週教室まで送り迎えができる家庭が減っている実情に合わせて、もっと便利で手軽に通える音楽教室をつくりたいと考えた。さらに、大人になってからピアノ

を弾きたいと思い始めた人、ピアノ教室は敷居が高いと思っている人も気軽に参加できるように音楽教室にしようと検討を重ねた。

「I Love Piano」では子どもコースと大人コースを設け、それぞれ個人レッスンは一回三十分。大人の個人レッスンは、楽譜が読めなくても参加でき、ポップスやジャズなど好きなジャンルの曲でレッスンを受けられる。昔ピアノを習っていたが途中で挫折してしまった経験者にも好評を得ている。

教室の立地にもこだわり、買い物の合間にも通えるように、ショッピングセンターやスーパーの中に教室を設けた。わずか五坪の教室は、一台のピアノと一人の先生がいるだけの空間。初心者でも萎縮することがないようにとの配慮から、マンツーマンレッスンのスタイルにした。一見、カフェのよう



音楽物語のコンサートで演奏する渡邊さん
写真提供：株式会社ワタナベミュージックラボ



この名酒はこの一品 20

八千代 純米大吟醸50

山口県萩市



八千代酒造の名酒。一番右がROOM

八千代酒造合名会社

創業 1887(明治20)年
山口県萩市吉部下3306
TEL 08388-6-0221
https://www.yachiyo-shuzo.com
年間生産量 100石(18kℓ/1万升)



中国山地の山々に囲まれた、萩市北東部のむつみ地区にある八千代酒造。良質の水と米に恵まれた地の利を生かし、一八八七(明治二十)年に創業した。米作りから始まる「農醸一貫」の酒造りを大切に、地元産の酒米にこだわってきた。一九九九(平成十二)年からは、ミネラルを多く含む大將山の伏流水を利用し、自社田で山田錦の減農薬栽培に挑戦。水や肥料の管理に試行錯誤しながらも、三年かかって栽培に成功し、面積も約四千平方メートルにまで広がった。近年、萩市と阿武町では山田錦の栽培に取り組む農家が増え、現在、八千代酒造で使用する酒米の九十%以上が地元産である。

「次世代に日本酒の文化を残すためには、この地域の土壌、気候、地形で生まれたお米を使って、自分たちでしか醸せない酒を造ることが大切」と五代目蔵元の蒲久美子さんは語る。

今回紹介する名酒は、自社栽培の山田錦を用いた「八千代 純米大吟醸50」。こだわりの米、麴、水を低温でじっくりと発酵させたもろみを、槽と呼ばれる木枠で丸二日かけて搾るため、一口

飲むと口の中に上品な香りが広がり、米のうま味がしつかりと感じ取れる。飲み口がすっきりとしているため、食中酒にも適す。四十三〜四十五℃のぬる燗で楽しむのがおすすめだ。

この名酒と一緒に味わいたいのが萩市のブランド豚「むつみ豚」の角煮である。ストレスのない環境で、乾燥したパン粉を主とした飼料を食べて育つむつみ豚は、柔らかい肉質と、甘みのある脂によるジューシーな味わいが特長の豚肉だ。甘口醤油、砂糖、酒で煮込んだ豚肉と酒が調和し、酸がまろやかなうま味に変わる。他にも猪の焼肉やベーコンなども相性が良い。

伝統を大切にしながらも新しい取り組みにも意欲的な同社では、今春、萩市在住のデザイナーと協働し、働く女性をターゲットにした酒「ROOM」を発売した。「ラベルは日本酒らしい重厚さよりも、女性受けするおしゃれなデザインを重視しました。目指したのは、飲んだ人が元気になるようなお酒です」

これからの地で醸す酒を大切にしながら、日本酒の魅力を幅広い層に伝えていきたいと考えている。



土木業の仕事を定年退職後、ずっと憧れていたピアノを習いたいと、I Love Pianoに通い始めた60代の男性。黄美歌「アメイジング・グレイス」を練習している
写真提供：株式会社ワタナベミュージックラボ



孫2人と祖母と一緒に通うケースも。ピアノを囲んでにぎやかな場が生まれている
写真提供：株式会社ワタナベミュージックラボ



スーパーマーケットの中に併設された音楽教室「I Love Piano」



コンサートホールを完備した音楽教室兼店舗のワタナベミュージックラボ三原駅前センター

な外観のため、気軽に扉を開けられる。「コンテストに参加したり、教師などの資格を取りたいと思っている人は、音楽教室の養成コースに通えばいい。でも、ピアノを弾いてみたいけど一歩踏み出す勇気がないと思っている人が通える教室がこれまであまりなかったのです。そう迷っている人がいたらぜひ「I Love Piano」を訪ねてみてほしいです」

上手に弾けなくても、練習があまりできなくても大丈夫。ピアノを愛する心さえあればOK——ピアノ教室の入門編のような教室だ。

「I Love Piano」を始めるにあたり、既存の音楽教室の経営者からの反発が少なからずあったという。少子化で生徒数が減っている中で新しいタイプの教室ができたなら、生徒の奪い合いになってしまおうと危惧してのことだ。渡邊さんは、そうした経営者のもとに自ら出向き、従来の音楽教室とは目的が違うことを丁寧に説明して、理解を求めた。

開校後、集まった生徒は、母親が買い物をしてる間にレッスンを受ける幼児や、仕事帰りに立ち寄る会社員などさまざまなまで、男性も意外に多いという。

また、音楽大学出身で子育て中の女性が、特技を生かしながら、子育てに支障のない範囲で働けそうだと、ピアノの先生に応募するケースも多い。このように、生徒だけでなく、先生となる人の音楽生活にも彩りを添えている。

「I Love Piano」は、二〇一八年第二回中国地域女性ビジネスプランコンテスト(SOERU)で優秀賞(中国経済連合会会長賞)を受賞した。生活の中心の場所であるスーパーマーケット内に教室を設置し、幅広い年齢層をターゲットにして音楽の一般化を目指していることが高く評価された。

現在、十教室あり、目標は一〇〇教室。「I Love Piano」は立地が重要なため、好条件の物件を探すのが難しくうだが、最近では他店との違いを出そうとスーパーの事業者から「うちの店舗に教室を開いてくれないか」と声がかかるようになったという。

ピアノを弾く場所を超え、幸せを提案する場に

「I Love Piano」で渡邊さんが目指しているのは、来るだけで幸せになれるピアノ教室だ。

「楽しいもの、美しいものなどは人を幸せにするため、積極的に取り入れています」

社内でも、「楽しい・うれしい・だいき・ありがとう・幸せ」を合言葉に、明るくハッピーな社風に磨きをかけている。

今後は、ピアノ教室の枠を超え、幅広い視点から人々を幸せにする場を作っていききたいと話す。

「今、世の中はこれまでの常識や従来の枠組みが変わるタイミングに来ているように思います。今後は、ピアノ教室でありながらも、単なる『ピアノを弾く場所』を超えて、異業種とのコラボレーションを視野に入れながら、幸せを提案する場として展開していきたいと思っています」

藤沢 享乃(ふじさわゆきの)
鹿児島生まれ。ライター、よつば編集広告事務所代表。大学を卒業後、出版社を経て広島県でフリーライターに。現在は、ライター仲間と設立したよつば編集広告事務所を拠点に、地域に根差した記事を執筆している。

山名 文夫

[1897-1980]



70歳の時の山名文夫

資生堂のビジュアルデザインの 一時代を築く

昔、母の鏡台に、曲線がうねる美しい模様のクリーム瓶があった。ロココ風にもみえる唐草装飾が洗練されたデザインに仕立てられていて、豪華かつ繊細な瓶のパッケージを見て、幼心に「これが化粧品か」といづくばかの感銘を受けたのを覚えている。それが「ドルックス」という資生堂の化粧品シリーズで、山名文夫という人がデザインしたと知ったのは、後に筆者が大学院で雑誌や広告のデザインを研究した時だった。

父の退役に伴い、一家は父の郷里の和歌山市に転居し、広島をあとにした。和歌山で中学校を卒業後、しばらく画塾に通い画家を目指していた文夫だったが、父が亡くなるなどして自活の必要に迫られ、一九二二（大正十一年）年に在阪の雑誌社・プラトン社に入社し、文芸雑誌『女性』や娯楽雑誌『苦楽』の挿画や小さなカットを手掛けるようになる。ここから山名の商業美術家、今というグラフィックデザイナーとしての活動が始まる。一九二九（昭和四）年には東京にて資生堂に入社するが、勤務デザイナーの仕事に疑問を持ち、三年後に退社する。その後、一人でデザイン事務所を構え、フリーランスで仕事をしていたが、一九三四（昭和九）年に写真家・編集者の名取洋之助が主宰する日本工房に参加し、海外に日本を紹介する雑誌『NIPPON』の編集デザインを担当する。

唐草模様に見られる 装飾の極致

一九三六（昭和十一年）年に資生堂に復職。ここで山名は前述した化粧品「ドルックス」のパッケージデザインや、女性像や唐草文様をモチーフにした山名調ともいえる広告デザインを次々と生み出し、資生堂のビジュアルデザインの第一時代を築き上げた。女性像と唐草文様に代表される山名のエスプリ（機知）は、余人には真似のできない装飾の極致ともいべきスタイルである。彼は線を整理し、単純化し、平面的な色彩の扱いで、絵画調ではなくまさに図案（デザイン）に仕立てるのに成功した。モダンカラー粉白粉のパッケージはそうしてつくられたものである。時代の先端を行くモダンカラーがオールデコ調で描かれている。彼の描く線は軽やかで、絵画のような重厚さはない。デザインをセールの

現場の経験が礎に

太平洋戦争の激化により、化粧品などの奢侈品は規制を受け、仕事が激減したことから、一九四三（昭和十八）年に山名は再び資生堂を去るが、その後も宣伝部制作室長や顧問として、戦後一九七〇年代中頃まで資生堂と関わり続けた。

山名は日本のグラフィックデザイナーの第一世代であるが、本人はどうかや最初資生堂に入社するまでは本格的な商業美術家にならうとは思っていなかったらしく、自分はいくまで洋画家でその延長で挿絵やカットを描いていると思っていたようだ。しかし現場で活字や印刷版式の凸版を学び、文章とイラストレーションの関係を知



資生堂ドルックス（コールドクリーム）1951年
資生堂企業資料館蔵



資生堂ドルックス 唐草模様 1951年
資生堂企業資料館蔵



資生堂モダンカラー粉白粉 1932年
資生堂企業資料館蔵



資生堂コールドクリーム パニシングクリーム ポスター 1937年 資生堂企業資料館蔵



「NIPPON」ポスター 日本工房 1934年頃



資生堂の香水 新聞広告 1952年 資生堂企業資料館蔵

り、図案ばかりか文案（コピーライティング）までも考案しなければならぬ立場で実践によりたき上げられた結果、一人前の商業美術家としての自覚を得た。特に日本工房での経験は、写真の見方を知り、トリミングの重要性を知り、レイアウトの感覚を練り、欧文化字の扱いに慣れ、仕事に粘る訓練を受けられた、と後年本人が述べているように、得難いものであった。

それが花開いたのが資生堂に再就職したときだった。課長の立場も幸いし、すでにあったフランスの洗練されたエレガントなムードを漂わせるスタイルに自分のオリジナリティーを加え、資生堂調といえは山名調といわれるようなスタイルを確立するに至った。唐草文様を基調にしながらその時々の時代感覚を取り入れて新しいハイモニーをつくりだすパッケージや広告デザインはこうして生みだされたのである。

（文・西村美香）

西村 美香（にしむら・みか）

兵庫県生まれ。京都工芸繊維大学大学院修了。明星大学教育学部教授。近代デザイン史を専門とする。著書に『モダニズム出版社の光芒 プラトン社の1920年代』（淡交社、2000年、共著）、『展覧会図録「二十世紀のポスター」』（日本経済新聞社、2011年、共著）、『グラフィック・デザイン全史』（淡交社、1996年、共訳）などがある。

※オープリー・ピアズレー…イギリスのイラストレーター、詩人、小説家。白黒の線画で流れるような曲線に世紀末的雰囲気漂わせる挿絵やポスターを多く描いた

かつて東洋一の軍港として栄え、第二次世界大戦後は臨海工業都市として発展した広島県呉市。対岸の江田島との間を往復する呉湾おさんぽクルーズでは、瀬戸内ならではの景観と、海とともに歩んできた呉市の歴史をたどることができる。

海軍のまちとして発展した呉市

三方を山々に囲まれ、一方が瀬戸内海に開けた広島県呉市は、一八八九（明治二十二年）年に海軍拠点の一つである呉鎮守府が置かれ、海軍のまちとして発展した。艦艇や兵器を製造する呉海



旧呉鎮守府庁舎（現・海上自衛隊呉地方総監部庁舎）



戦艦大和のドック跡（現・ジャパン マリンユナイテッド呉事業所）

軍工廠も設置され、戦艦大和を建造するなど、東洋一の軍港として栄えた。

戦後は、海軍との関わりの中で蓄積してきた技術をもとに造船、鉄鋼などを中心とした臨海工業都市として復興を遂げてきた。

こうした中、二〇一六（平成二十八）

年には、海軍鎮守府が置かれた他の三都市とともに「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」日本近代化の躍動を体感できるまち」として日本遺産に認定され、現在、近代化の歩みを伝える取り組みを進めている。

臨海工場群と艦船が並ぶ風景

呉湾おさんぽクルーズは、呉港と対岸の江田島市の小用港を往復して景色を楽しむクルーズである。定期航路のカーフェリーに乗船するクルーズだが、呉湾ならではの景観を間近に眺めながら、海とともに歩んだ呉の近代の歴史と瀬戸内の自然を同時に感じることができる。呉港を発着点とし、八時台から十八時台まで一日九便が利用可能で、所要時間は約四十五分。日曜日の午後二回は呉観光ボランティアの会によるガイドもある。

呉港を出て左舷方向を見ると、まず山裾の木々の中に赤レンガ造りの建物が見える。一九〇七（明治四十）年建設の旧呉鎮守府庁舎（現・海上自衛隊呉地方総監部庁舎）だ。再建されたト

ム以外は、当時の呉市の代表的なレンガ建築がそのまま残されている。

引き続き左側の湾岸に視線を向けてみると、工場群やそびえ立つクレーン、建造中の巨大タンカーなど臨海工業都市ならではの光景と、迫力のある灰色の自衛隊艦船が棧橋に並ぶ独特の景観が広がる。戦前、この一帯は海軍工廠で、戦後は民間の工場に転用され、海上自衛隊の基地も置かれた。「大和のふるさと」と掲げた看板の奥にある、一段と高い屋根の建物は戦艦大和のドック跡。大屋根は大和の目隠し用に建てられたという。ドックは埋め立てられたが今も工場として使われている。

しばらくすると、アーチ形の第二音戸大橋が見えてくる。音戸の瀬戸は、呉市の警固屋と倉橋島との間の水路で、かつて平清盛が扇で太陽を招き返し、一日で開いたという日招き伝説が残る。二〇一三（平成二十五）年に開通した第二音戸大橋は、陸上部アーチと海峡部大ブロックを日本最大級のクレーン船を用いて空中結合した日本初の空中ジョイント一括架設工法がイン

映画『海猿』のロケ地に使われた海上保安大学の校舎が見渡せる。

山と島に囲まれた地形

海上から呉市や周囲の景観を眺めると、呉に鎮守府が置かれた理由も領ける。呉は山と島々に覆い隠されるように奥まった場所に位置しており、敵艦に攻撃されにくい場所と考えられていたのである。

港に近づくくと、海岸近くに大和ミュージアムと「てつくじら館」が見える。



呉港を出航して小用港を往復する約45分の呉湾おさんぽクルーズ航路



三ツ子島



第二音戸大橋 写真提供：呉市



小麗女島



海上保安大学校付近から眺める大麗女島 写真提供：呉市



左から、てつくじら館、大和ミュージアム、呉港中央棧橋



造船所群

ターネット中で中継され、話題となった。その右手に遠望できる白い山は三ツ子島。白い山の正体は、三ツ子島埠頭株式会社がメキシコから輸入し貯蔵している工業用の塩で、ここから船で全国各地へと運ばれる。この塩は大粒の結晶のため、飛んだり、溶けたりしないという。

行き交う船を眺めながら、瀬戸内海を進むと、やがて江田島の古鷹山が眼前に迫り、呉から二十分ほどで小用港に到着する。江田島には、戦前は海軍

兵学校が置かれ、戦後は海上自衛隊第一術科学校として利用されている。

小用港から折り返し再び呉湾に近づくくと、左舷方向に大小二つの無人島大麗女島と小麗女島が間近に見える。現在、自衛隊が管理する大麗女島は戦前、特殊潜航艇「蛟龍」の地下工場が設置されていた。当時の名残であるトンネルが今も残る。白い灯台が立つ小麗女島には、かつて呉港に出入りする船を監視する海軍の見張所が置かれていた。島の先に見える本土の湾岸には、

前者は戦艦大和や科学技術、呉の歴史などを伝える博物館。後者は陸上に展示した実物の潜水艦で、内部を見学できる。両施設とあわせてクルーズを体験すれば、呉の近代史がよく分かる。

二〇一九（令和元）年七月、呉市は海軍鎮守府開庁百三十年を迎えた。これを記念して一年にわたり、呉の歴史のパネル展示、記念シンポジウム、呉海自カレーフェスタなどさまざまな催しが予定されている。

（文・川西由香理）

赤ハゲ山

《島根県》



来居港から仁夫里浜公園を経て山頂に至るルート 地図制作：磯部 祥行



山頂の北側からは、隠岐諸島の西ノ島や中ノ島を眺めることができる



山頂付近に群生する野ダイコン



国の天然記念物に指定された赤壁。時刻とともに色の変化を楽しむ

写真提供：知夫里島観光協会

隠岐諸島の最も南に位置する知夫里島にある赤ハゲ山。土壌が赤く、木が生えていないことからその名が付いたといわれる。一帯に野ダイコンが群生し、見頃を迎える四月下旬から五月上旬には多くの人が訪れる。

来居港から山頂までは徒歩で三時間ほどかかり、舗装された道を歩いて登ることができる。仁夫里浜公園を過ぎ、分岐から右に登っていくと、徐々に視界が開ける。沖に浮かぶ神島や山並みを楽しみながら進むと草原が広がり、牛の放牧や石垣の跡が目に入る。かつて島内で行われていた独自農法の牧畑の名

残を眺めながら、赤壁への分岐に進み、赤ハゲ山展望所に続く急な坂を登ると、頂上に着く。山頂の展望所では、カルデラ湾に浮かぶ隠岐諸島や島根半島、大山などを望むことができる。

分岐に戻り、右手の道を下りて、猫ヶ岩屋古墳から遊歩道を歩くと、赤壁展望所に着く。赤壁は大きくえぐられた赤褐色の岩肌が特徴の海に面した断崖絶壁で、島の人気スポットだ。柵がないため見学の際は注意が必要である。登山道ではオキタンポポ、オキノアザミなど隠岐にしか生息していない希少な植物を見るのもおすすめだ。

※牧畑…農地全体を4つの牧に分け、畑作と放牧を4年周期で行う農法。知夫里島では1960年代ごろまで行われていた。



◎「碧い風」VOL.97 2019年11月1日発行

発行人：清王 秀敏 編集人：城市 奈那

●企画・発行：中国電力株式会社 地域共創本部

〒730-8701 広島市中区小町4-33 ☎082(544)2759

[ホームページ(碧い風)] <http://www.energia.co.jp/eneso/tech/wind/index.html>

●編集・制作：株式会社ジェイクリエイト

〒101-0052 千代田区神田小川町3-7-13 ヴァンサンクビル6F ☎03(6273)7135

ISSN 0918-9335

禁・無断転載